

上野「文化の杜」新構想推進会議・ワーキンググループ（第3回）議事メモ（案）

開催日時：平成26年3月6日（火）10：00～11：15

開催場所：東京藝術大学事務局第2会議室

出席者：辰野国立文化財機構理事、栗原国立文化財機構事務局長・（兼）東京国立博物館総務部長、小松国立西洋美術館副館長、折原国立科学博物館理事、小室東京都美術館副館長、桜庭東京文化会館副館長、鈴木上野の森美術館事務局長北郷東京藝術大学理事、畑中東京藝術大学理事・（兼）事務局長、平林文化庁政策課長

オブザーバー：大澤実紀東日本旅客鉄道（株）事業創造本部長、杉本品生東日本旅客鉄道（株）投資計画部次長

欠席者：関東京都生活文化局文化振興部部長、五十嵐東京都建設局公園緑地部公園計画担当部長
田辺台東区文化産業観光部長

ヒアリング参加：大谷東京地下鉄営業部営業推進室長

● 議事に先立ち、

ワーキンググループ委員について、田辺台東区文化産業観光部長を追加することとした。

● 議題

（議題1）前回の議事メモの確認について

座長から配付資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

（議題2）上野「文化の杜」新構想に係る検討の方向性（素案）について

座長から配付資料に基づき説明があり、今後の検討の方向性等について意見交換を行った。

また、座長から事務局に対して本日の意見交換を踏まえ、上野「文化の杜」新構想に係る検討の方向性（素案）について、加筆修正するよう指示があった。

（主な意見等）

- ・ 3000万人の目標値は、有料入館者数だけでなく無料入館者もカウントに入れるべきである。また、3000万人という数値の範囲・解釈について明確に共通認識を持つておく必要がある。
- ・ 「上野の杜」又は「上野地区」はどの範囲を指すのか。明確にしてほしい。
- ・ 展示スペースや駐車場等施設の拡大を行いつつ西洋美術館の世界遺産化に伴う周辺環境の保全に協力するためには、地下施設を建設できることがベストだが、地下化が不可能となった場合に供え、ハード面の検討事項に「公園周辺での新設備実現の検討」を加えたい。
- ・ アクセスポイントの整備に関して、鶯谷駅からのアクセス改良も加えたい。

- ・ 託児サービスに関して、新たに共同の施設を建設すると時間もお金もかかるが、既存施設の一室で託児サービスを行えば、迅速に実施できる。また、託児サービスを実施するには実はイニシャルコストよりもランニングコストをどう確保するかの方が難しい問題である。
- ・ 東京五輪開催に決定に伴い、上野公園グランドデザインはどう変化したのか東京都に確認する必要がある。

(議題3) 交通関係機関のヒアリングについて

座長から標記について提案があり、東京地下鉄(株)及びJR東日本(株)から上野「文化の杜」新構想に係るご意見、ご期待、ご要望の他、広く上野地域との関わり等について、ヒアリングを行った。

(主な内容)

- ・ 上野駅および上野公園周辺の回遊性を高めるための案内表示の工夫と広報の協力依頼について
 - ⇒ 上野には魅力的な施設が散在しており、それらを効率的に訪れることができる、より回遊性を意識した街づくりが肝要であると認識しているので、可能な限り協力していきたい。
- ・ 地下鉄上野駅と上野公園へのアクセス環境の整備依頼について
 - ⇒ 上野駅の案内表示にはいろいろと工夫を凝らしているが、今後も地図や案内図に施設物の写真や絵を入れる等、アクセス改善を図っていきたい。
- ・ 今後の検討について
 - ⇒ 事業スキームに関し、中長期的な計画もあることから、具現化するためには各関連団体と足並みを揃えつつ、連携をみつつ、また、アウトソーシングを含め戦略的・機動的な検討体制が必要。
 - ⇒ 検討に際しては、開発費等を含めた施策の実現可能性を視野に検討が必要。

[その他]

- ・ アンダーパス化の検討を進めるためには、上野公園口前道路をどのような車が利用しているのか、また、土・日曜日の通行止めなど試験的实施が必要ではないか。
- ・ 展示面積を増やしても、人や展示活動に係る予算が増加するとは考えられない。自前予算での対応は不可能である。
- ・ 予算面等々、相当ハードルの高いアンダーパス化に限らず、公園口前のロータリー化による車の制御も考えられる。